

令和6年度 事業計画書(案)

自 令和6年 4月 1日

至 令和7年 3月31日

I. 基本方針

本財団は「デザイン保護を通じて創作を支援する」との立場から、意匠や裏印の保全事業を通じて商品開発意欲や知財への関心に応え、陶磁器産業の持続的な発展に貢献したいと考えています。

また、本財団創設以来蓄積されてきた諸資料(意匠保全登録証、輸出認証申請書控え、裏印登録証及び認証申請書など)は審査資料として利用していますが、加えて我が国陶磁器産業の発展を具体的に物語る資料でもありますから、その保存及び活用を促進するため資料のデジタル化及び利用環境の整備に努めています。

意匠権、商標権、著作権など、知的財産権に関わる相談窓口として広く対応し、支援します。

II. 事業計画の概要

1) 陶磁器のデザイン及び裏印の保全登録事業

食器・ノベルティ・タイルのデザインと裏印の保全について以下の事業を行います。

(1) 食器、ノベルティ、タイルのデザインと裏印の保全登録事業

① 陶磁器デザインの保護は、下記の2つの制度にて対応しています。

意匠保全には、次の A または B の選択利用が可能です。

A. 意匠の保全登録制度

申請(書面申請)に基づき、新規性を判断する意匠審査を実施し、“新規性あり”とした意匠について保全登録を行います。

保全期間の年限は設けていません。

B. 意匠・商品名等の予備登録制度

申請(電子メール申請)に基づき、登録者・意匠(商品名等)・受付日付を登録。「先使用の証拠」として本財団が証明します。

利用期間は申請(登録)から3カ年。

4年目以降の保全を希望する登録者には A で対応します。

② 「裏印」の保全登録

「裏印」は、次のように分類しています。

- 1) 会社名・窯名や会社マーク・窯印など、いわゆる「ハウスマーク」。
- 2) 商品名やシリーズ名など「ファミリーネーム」「ペットネーム」と言われるもの。

それぞれ保全登録した裏印は、本財団で管理します。

使用期間の不確定なファミリーネーム、ペットネームと呼ばれるものは、簡便な登録制度である「意匠の予備登録制度」を援用し、登録申請日を「受付日」として保全致します。

使用開始日の第三者確認が何より大切です。

(2) 登録した新規デザイン・裏印の公開(除く 秘密登録)

保全登録した意匠や裏印を本財団ホームページにて公開します。

(3) カタログの受入

事業者からカタログやパンフレット等を受け入れ本財団の受付日付を「公知日」とし(受付証を発行します)、当該カタログ等に掲載されている製品の模倣防止や他者による類似製品の権利化防止に役立てることが出来ます。

カタログ・パンフ掲載の商品名等についても、申請日を第三者による確認として利用できます。

(4) 意匠・商標など知的財産権の啓発及び模倣防止対策

- ① 登録意匠・裏印の模倣問題への対処には、顧問弁理士及び顧問弁護士の協力を得て取り組みます。
- ② 意匠権や商標権、著作権など知的財産権に関わる相談に応じます。特許庁出願ご希望の方には、顧問事務所とともに、出願の支援を行います。
- ③ 外国で商標権や意匠権を得ようとする事業者には、行政の実施する助成金制度の活用に関する相談に応じます。
- ④ 不正競争防止法について、顧問弁理士・弁護士の協力を得て、適用事例等の研究を進めます。
- ⑤ 特許庁に登録された意匠・商標・実用新案などを検索できる「特許情報プラットフォーム J-PlatPat」の利用について相談に応じます。また J-PlatPat 利用の講習会を実施します。

- ⑥ WEB 上に紹介されているデザイン・知的財産権等に関するニュース(URL)を集め、「意匠センターNEWS」としてEメールで配信します。

2) 保存資料・書籍の公開・利用

保存している下記の資料・書籍の利用を促進します

<デザインに関連して>

- ① 意匠の「保全登録証」 1956年～現在 約13万件
「食卓台所用品」約8万件、「ノベルティ」約3万5千件はデジタル化し、意匠による検索可能なデータベースで閲覧できます。
- ② 輸出入取引法に基づく「意匠認証」資料 1956年～1997年 約75 万件<意匠件数として、150万件以上>

<裏印に関連して>

- ③ 昭和初期(1932年、1935年)及び戦後(1950年、1954年)の業界団体調査の「裏印簿」(傘下の事業者対象)
- ④ 裏印の「保全登録証」 1956年～現在
- ⑤ 1965年12月～1997年12月まで、「裏印認証」(輸出に際し、裏印・商品名等の使用可否を認証)
- ⑥ 本財団1971年調査 輸出事業者を対象とした、各事業者使用中の「裏印、シール、パタンネーム」報告書ファイル

<図書の公開について>

- ⑦ 収集した書籍、デザイン・工芸関連専門誌、業界紙誌の公開。
蔵書を8分類し、そのリストをHPにて公開しています。

3) 陶磁器デザインに関するセミナー事業

陶磁器デザインに関する講演会を行い、デザイン開発者の育成や陶磁器ファン層の拡大に貢献します。

また、知的財産権に関するセミナーを行い、創作保護に関する国の制度を把握し、その活用法について共に考えます。

(以上)